

2026

4/29 水祝
14:00~15:10

<青涼能> 賛助金4,000円
能 **橋弁慶**

シテ 上田 顕崇 トモ 梅若雄一郎
子方 谷口 春輝
アイ 善竹 忠亮・小林 維毅
笛 貞光 智宣 小鼓 古田 知英
大鼓 森山 泰幸

6/14 日
14:00~16:00

<謡とお話の会> 入場料3,500円 (仕舞・お話有)
素謡 **柏崎** 上田 拓司・浦田 保親

8/6 木
14:00~16:00

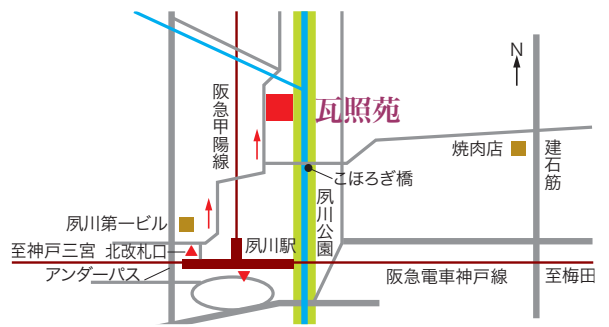
<木曜会> 入場料3,500円 (仕舞・お話有)
素謡 **三井寺** 上田 拓司・吉井 基晴



会場

夙川能舞台

瓦照苑



〒662-0063 西宮市相生町10-11
TEL.0798-55-7362 FAX.0798-55-7363
メール terasu@kanshou.com
ウェブサイト <https://kanshou.com>



2027

1/21 木
14:00~16:00

<木曜会> 入場料3,500円(仕舞・お話有)
素謡 **二人静** 吉井 基晴・上田 拓司

3/14 日
14:00~16:30

<舞囃子の会> 入場料3,500円 (お話有) ※順不同

舞囃子 **花月** 羯鼓入 上田 顕崇
舞囃子 **采女** 上田 拓司
笛 貞光 智宣 小鼓 高橋奈王子
大鼓 山本 寿弥
舞囃子 **逆矛** 上田 宜照
舞囃子 **善界** 上田 嶺貴
笛 貞光 智宣 小鼓 高橋奈王子
大鼓 山本 寿弥 太鼓 上田 慎也

主催:夙川能舞台 瓦照苑(一般社団法人 瓦照苑)
後援:西宮市・西宮市教育委員会・公益財団法人 西宮市文化振興財団

各公演とも、ご予約にて定員に達しました場合、以降の受付および当日でのご入場をお断りする場合がございます。ご予約がお決まりになりましたら、お早目のご予約をお願いいたします。

※照の会の会員様は各公演とも各500円割引にてご入場いただけます。

※開場は各公演とも30分前です。
※表記の終了時間は予定です。
※都合により演者等が変更になる場合がございます。

令和8年度 照の会 会員募集

- 年会費:1,000円(入会金不要)
- 特典:瓦照苑主催公演の入場料割引、公演案内送付(不定期)等
- ※期間途中入会により会費の割引はございません。

古来より普く芸能は、三熱に苦しむ神の心を涼しめる物 —

また、常緑の松は四季を通じて尚、青々とし、能舞台に描かれた老松は、能楽そのものです。夙川能舞台瓦照苑では、素謡、舞囃子、能を通して、眼前に広がる夙川公園の青松の如く、皆様の心にほっとした一息を、涼しいひとときを過ごしていただけることを願います。

長く受け継がれてきた美しい「^{ことば}詞」、その情景、心情を声のみで表現。

素謡 — <謡とお話の会> <木曜会>

素謡とは、囃子や舞を伴わず、謡のみで上演する演能形式です。当会では、囃子を用いず能の曲の舞の一部を上演する仕舞と、演目についての解説があります。

演者を”楽しむ”… 際立つ舞い手の個性と技。

舞囃子 — <舞囃子の会>

舞囃子とは、能の曲の舞所だけを取り出して、シテが地謡と囃子をまとって舞うものを指します。能面・装束はつけず、紋付袴姿で舞いますが、それゆえ舞い手の個性や技が際立ちます。<舞囃子の会>では、舞囃子を、演者の解説とともに楽しめます。

囃子、装束、面^{おもて} — 能舞台に映る室町からの物語

能 — <青涼能>

能とは、能楽の一番本格的な上演の形です。登場人物は皆、能装束を付け、囃子、地謡に囲まれた空間で、謡や舞を通して、一曲に込められた物語をご覧ください。



演者による曲目解説もごぞいます。

夙川能舞台 瓦照苑について…

広い世代の方々に、**能をもっと、親しく知っていただきたい。**

瓦照苑は、風光明媚な地、夙川を拠点とし青涼会はじめ、演能や講演、稽古など、さまざまな活動を行っています。

能は、室町時代から現代まで続いている舞台芸術で、ユネスコの「無形文化遺産」。約650年もの間、一度も絶えることなく人々の心を捉えてきた能に触れる機会を、ぜひともお持ちいただきたいと願っています。

3/14

舞囃子の会

国生み神話の「天の逆矛」を振るい威力を示す『逆矛』、王に仕える女の悲恋を舞歌で浄化していく『采女』、天狗と暮らした青年・花月の日々を鞆鼓の芸に映す『花月』、中国大陸の犬天狗「善界坊」が比叡山の高僧に挑む『善界』 — 舞手も囃子も芸尽くしの四曲をお楽しみいただけます。

2027

1/21

素謡「二人静」

菜摘女の前に現れた女の霊。霊に回向を頼まれた菜摘女が神職に話していると、突如声色がかわり — 憑依された菜摘女の背後に姿を現したのは静御前の霊であった。

8/6

素謡「三井寺」

生き別れとなった息子を探し、清水寺に参籠した女。夢の告げ通りに三井寺に参ると、月見の宴の最中。仲秋の名月、澄んだ鐘の音に惹かれ、自らも鐘をつき…。

6/14

素謡「柏崎」

夫の死と我が子の出家。二人の帰りを待ち続けた妻は物狂いとなり放浪の旅へ。亡き夫の形見を身に着け舞う妻に声をかけてきたのは少年僧となった我が子であった。

2026

4/29

能「橋弁慶」

平安時代末、夜も更けた京都五条の橋で、武蔵坊弁慶と牛若丸(後の源義経)は出逢い、刃を交える。今も語り継がれる義経弁慶伝説 — その主従の、深い絆の始まりの物語。